

思春期保健データベースの構築基盤整備に関する研究

研究分担者 阪下 和美（都立松沢病院精神科）

研究要旨

思春期の心身の健康をより向上させるため学校健診に加え、医療従事者による包括的な思春期保健活動が求められる。思春期保健に関する研究は多岐にわたるが、過去・現在の研究成果は集約されておらず、参照・利用が容易ではない。また研究者同士の協働を促す環境は乏しい。思春期保健データベース構築および、そのための専門家の共同体を作る必要があると考えられた。

A. 研究目的

1. 思春期保健の重要性

思春期の心身の健康状態は成人期に大きく影響を与えるため、思春期の心身の健康をより良く維持することは重要である。思春期には不適切な生活習慣やハイリスク行動の可能性が高まるほか、心身症や精神・行動面の問題が増加することが知られている。健康の社会的決定要因および健康のリスク因子を含む心理社会面を評価し、生活指導・助言、継続的な見守りによって心身の傷病を予防する積極的な一次予防が必要である。また、思春期の児のヘルスリテラシーを向上させることは、より健康な成人となるために重要である。学校健診に加え、医療従事者による包括的な思春期保健活動が求められる。

2. 思春期保健領域の研究活動における課題

思春期保健の領域では、さまざまな研究者・団体によって調査研究や支援策介が試行され、介入のための資料やツール（以下成果物と総称）作成が行われてきた。たとえば、厚労省科研費研究班、文部科学省研究班、各学術団体、自治体等である。しかし、それぞれの研究結果や成果物は集約されていない。正式な論文として発表されていない結果や公にされていない成果物も多く、情報の把握や成果物の効果的な活用が困難である。さらに、妊娠・出産・子育て

支援期の健康に関する情報サイトとして「健やか親子 21」があるが、思春期保健に関してパブリック（思春期の子ども、保護者、医療従事者、教育機関等）へ向けた一元的な情報提供の場はない。

本研究では、思春期保健に関連する様々な研究者・団体、および、実施された研究を調査し、その現状を把握した上で、一元的な情報集約およびパブリックへの情報発信の方法を検討することを目的とした。

B. 研究方法

①思春期保健に関する情報の状態の調査

厚生労働省科学研究成果データベース、文部科学省科学研究成果データベース、およびインターネット検索を用いて思春期保健に関連する研究・成果物や関連学術団体を調査した。

②情報集約および発信方法の検討

今やインターネットは広く普及し、ライフラインの一つとして捉えられるようになるほど日常に欠かせないツールである。集約した情報の共有およびパブリックへの発信の場としてインターネットを用いること、具体的にはウェブサイト構築が最善と考えられた。ウェブサイト構築のために過程を、専門家へのヒアリングを通じて調査した。

（倫理面への配慮）

インターネット上にすでに公開されている情報を対象とした調査であり倫理面への配慮は要しない。

C. 研究結果

①思春期保健に関する情報

厚生労働省科学研究成果データベース、文部科学省科学研究成果データベースを「思春期」という検索語にて検索し、思春期保健に関する研究名を抜粋した。思春期について言及していても特定の疾患群の治療や予後に関する研究は除外した。厚生労働省科学研究成果データベースからは2015～2021年度、文部科学省科学研究成果データベースからは2021年度の研究の一覧を作成した。(表1, 2) 特に文部科学省科学研究は研究種目を問わず思春期保健に関する研究課題が非常に多く、思春期保健への関心の高さがうかがえた。

思春期保健に関する学術団体は数多くあり(表3)、主会員は小児科医、産婦人科医、精神科医、助産師、教育関係者、養護教員等さまざまであった。

②情報集約および発信のためのウェブサイト構築の過程

ウェブサイト作成の大まかな流れは1) 業者選定・コンセプトメイクおよびヒアリング、2) 見積もり、3) 制作である。業者を選ぶ際デザインをしてくれるか、機能開発をしてくれるか、予算など考慮するが、必要な機能を洗い出すなどヒアリングの作業が最も重要である。制作の際、情報を届けたいターゲットを絞ってサイトをデザインする。検索キーワードも工夫する。制作は通常は2～3か月程度である。業者に、コンセプトにあった企画を考えてもらい、その企画をWEBに落とすとどうなるかという構造図(マップ)を作ってもらい。制作後にも、メンテナンス作業が必要であり、具体的にはセ

キュリティや、機能バージョンアップが必要になる。必須の維持費用としてはサーバー代がある。参考になるウェブサイトとして、下記があった。

・健やか親子 21

<https://sukoyaka21.mhlw.go.jp/>

・NHS health for teens

<https://www.healthforteens.co.uk/>

・mental health literacy

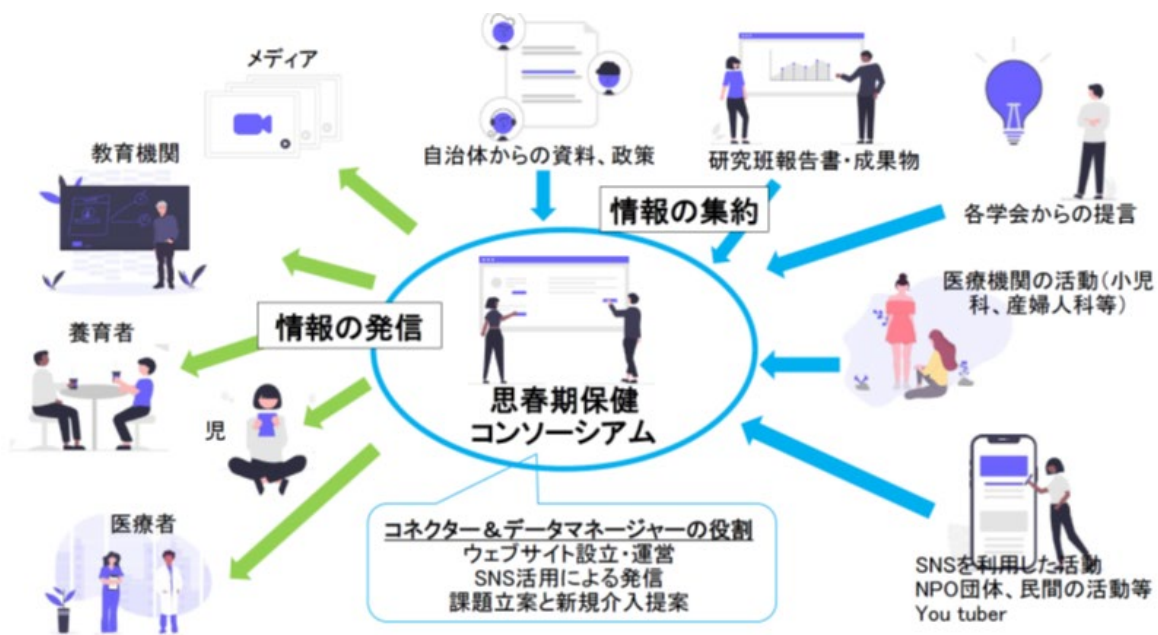
<https://mentalhealthliteracy.org/>

・SafeBAE <https://safebae.org/>

D. 考察

思春期保健に関する研究は、ごく短期間においても多く、類似した視点の研究もあった。研究者の専門分野は多岐にわたり、協働すればさらに効率のよく発展性のある研究や介入の実現の可能性があると考えられた。

研究成果を一か所に集約し、同時にパブリックへの情報発信を行うデータベースを構築する上で運営組織の構築が必要と考えた。この組織を思春期の健康に関心を持つ専門家の集合体として「思春期保健コンソーシアム」と命名し、コンソーシアムを構築するための基盤整備について考察した。



図：思春期保健コンソーシアム概念図

コンソーシアムの目的・運営方法を下記と考えた。

目的：1)思春期保健における、過去・現在の調査研究成果・成果物・資料を集約し、情報データベースを構築する。

2)専門家同士の交流および情報共有に基づく協働の機会を作る。

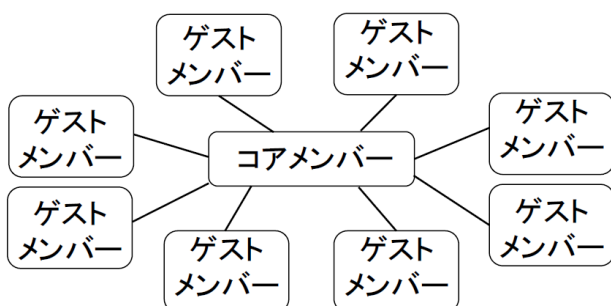
3)パブリックへ情報を発信する。

運営：1)本研究班の分担研究者のうち有志の研究者をコアメンバーとする。

2)思春期保健領域での活動をしている団体・研究班・個人に対して、依頼の上参加同意を得てゲストメンバーとして登録する。

コアメンバーは、コンソーシアム独自のウェブサイト（以下コンソーシアムウェブサイト）を作成し、管理する。ウェブサイトに掲載する独自の情報提供資料（ハンドアウト等）を執筆・作成する。ゲストメンバーの募集と参加依頼をし、ゲストメンバーから提供された資料・成果物からサイトに掲載するものを選択する。

コンソーシアムウェブサイトではパブリック（具体的な対象は思春期の子ども、保護者、医療従事者、教育機関）へ、心身の健康に関する実用的な情報を提供する。健やか親子21のように、いろいろな立場から参照してもらえるサイトを目指す。



E. 結論

思春期保健に関する研究は多岐にわたるが、過去・現在の研究成果は集約されておらず、参照・利用が容易ではない。また研究者同士の協働を促す環境は乏しい。思春期保健データベース構築のための専門家の共同体「思春期保

健コンソーシアム」を作り、過去の研究成果の集約、研究者の連携強化、パブリックへ情報発信を行うことを目指すことが望ましいと考えられた。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし。
2. 学会発表 該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

該当なし

表 1. 2015～2021 年度における思春期保健に関する厚生労働省科学研究調査一覧

※ 敬称および課題番号は省略、掲載順は順不同。

●	母子保健情報と学校保健情報を連係した情報の活用に向けた研究 研究代表者(所属機関)： 栗山 進一(国立大学法人東北大学 災害科学国際研究所)
●	思春期レジリエンス向上に有用な介入プログラムの大規模実証研究 研究代表者(所属機関)： 岡田 直大(国立大学法人東京大学 国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構)
●	吃音、トゥレット、場面緘黙の実態把握と支援のための調査研究 研究代表者(所属機関)： 中村 和彦(弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座)
●	児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究 研究代表者(所属機関)： 五十嵐 隆(国立研究開発法人 国立成育医療研究センター)
●	ゲーム障害の診断・治療法の確立に関する研究 研究代表者(所属機関)： 松崎 尊信(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科)
●	親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究 研究代表者(所属機関)： 永光 信一郎(久留米大学 医学部 小児科)
●	身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究 研究代表者(所属機関)： 岡 明(国立大学法人東京大学 医学部附属病院)
●	保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究 研究代表者(所属機関)： 荒田 尚子(国立研究開発法人 国立成育医療研究センター病院 周産期・母性診療センター母性内科)
●	小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個別性を超えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究 研究代表者(所属機関)： 窪田 満(国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 総合診療部)
●	小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究 –学校保健における思春期やせの早期発見システムの構築、および発症要因と予後因子の抽出にむけて– 研究代表者(所属機関)： 内田創(獨協医科大学越谷病院子どものこころ診療センター)
●	青年期・成人期発達障がいへの対応困難ケースへの危機介入と治療・支援に関する研究 研究代表者(所属機関)： 内山 登紀夫(福島大学 人間発達文化学類)

表2. 2021年度における思春期保健に関する文部科学省科学研究調査一覧

※ 敬称および課題番号は省略、掲載順は順不同、研究種目はすべてを含めた。

- COVID-19 流行下の思春期メンタルヘルスの経時変化に関する大規模疫学調査研究
研究代表者：森島 遼（公益財団法人医療科学研究所）
- 地理・社会環境を考慮した思春期小児の睡眠に対する身体活動ガイドラインの開発
研究代表者：青木 拓巳（宮城学院女子大学教育学部）
- 「障害の社会モデル」に基づく衝動性の臨床心理学モデルの再構築
研究代表者：高橋 史（信州大学, 学術研究院教育学系）
- 地図情報から取得した地域の環境要因が子どもの情緒及び行動の問題に与える影響の解明
研究代表者：高橋 芳雄（弘前大学, 保健学研究科）
- 思春期の欠食とダイエットで性差をもって“リプログラミング”される食欲と代謝効率
研究代表者：藤原 智子（京都ノートルダム女子大学, 現代人間学部）
- 子ども期の逆境体験によってさらに精神的に成長する要因の探求：超成長学の提唱
研究代表者：藤原 武男（東京医科歯科大学, 大学院医歯学総合研究科）
- ジュニアアスリートの足脚部形成と運動機能および重心変化と障害との相互作用の解明
研究代表者：上田 恵子（畿央大学, 教育学部）
- 若年女性アスリートのエストロゲン分泌異常による骨代謝障害の機序解明
研究代表者：池戸 葵（愛媛大学, プロテオサイエンスセンター）
- 思春期心身機能の健やかな発達を評価する集約的ゲノム指標の開発
研究代表者：池亀 天平（東京大学, 医学部附属病院）
- 思春期女子に特有の発症リスクを考慮した摂食障害予防プログラムの開発
研究代表者：武部 匡也（立正大学, 心理学部）
- 自尊感情の変動性と友人関係の発達及びその因果関係：思春期・青年期への縦断研究
研究代表者：小川 翔大（中京大学, 教養教育研究院）
- 地域特性に配慮した子どもの栄養不良に関連する成育環境の探索
研究代表者：新杉 知沙（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所, 国立健康・栄養研究所 栄養疫学・食育研究部）
- 思春期から成人期までの発達過程での役割間葛藤対処法の創発・変容プロセスの動態解明
研究代表者：佐藤 尚（沖縄工業高等専門学校）
- 思春期の子どもの全身・部位別の脂肪量と骨格筋量の変化を捉える推定式の開発
研究代表者：緑川 泰史（桜美林大学, 健康福祉学群）
- 思春期の子どもの親を対象とした家庭内性教育支援プログラムの開発と有効性の検証
研究代表者：市戸 優人（札幌市立大学）
- 「視覚的栄養改善プログラム管理装置」の開発と思春期・青年期肥満学生への栄養指導
研究代表者：佐藤 厚子（弘前学院大学）
- 島しょ・僻地の強みを活かした青年期・思春期間のピアカウンセリング・プログラム開発

研究代表者：長嶺 絵里子（名桜大学，健康科学部）

- 「生命を脅かす病気をもつ病児のきょうだい」が学童思春期に望む支援」のモデル構築
研究代表者：下道 知世乃（横浜市立大学，医学部）
- 特別支援学校に通う知的障がいの子どもと家族および教員への包括的性教育に関する研究
研究代表者：安藤 布紀子（関西医科大学，看護学部）
- 学童期と思春期の女性に焦点をあてた冷え関連症状の緩和を目指した基礎的研究
研究代表者：羽藤 典子（人間環境大学，松山看護学部）
- 助産師と協働した児童養護施設のリプロダクティブ・ヘルスケア実施体制の構築と検証
研究代表者：福島 裕子（岩手県立大学，看護学部）
- 発達障害のある思春期女子の感覚調整障害による困難の解明と自己制御支援モデルの開発
研究代表者：大河内 彩子（熊本大学，大学院生命科学研究部）
- 高校生への「生」と「性」に関する仲間教育：長期プログラムの開発および効果の検証
研究代表者：笹野 京子（富山大学，学術研究部医学系）
- 思春期の子ども概日リズム睡眠・覚醒障害のケアプログラムに関する研究
研究代表者：鈴木 善博（人間環境大学，看護学部）
- 思春期の社会的能力の発達が成人期疾病リスクに及ぼす影響の検討：大規模コホート研究
研究代表者：細澤 麻里子（国立研究開発法人国立国際医療研究センター）
- 学童期の栄養摂取が肥満、耐糖能、二次性徴に与える影響を解明する研究
研究代表者：和田 恵子（岐阜大学，大学院医学系研究科）
- 不登校予防へ 思春期心身症早期介入の教育・医学連携学校健診の実装
研究代表者：土生川 千珠（独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター）
- 神経心理学に基づく良質な親子関係構築のための子育てマインドフルネスの研究
研究代表者：南谷 則子（千葉大学，子どものこころの発達教育研究センター）
- 摂食障害予防を目的とした基礎的研究および予防的介入プログラムの開発
研究代表者：山蔦 圭輔（神奈川大学，人間科学部）
- 思春期の子ども親に対する自己開示に関する研究
研究代表者：渡邊 賢二（皇學館大学教育学部）
- 二次障害を伴う思春期発達障害ケースに対して継続したアウトリーチ支援体制の構築
研究代表者：松島 亜希子（久留米大学，医学部）
- 青年期の非援助要請者を対象とした精神的健康の予防的支援：社会実装に向けた実証分析
研究代表者：天井 響子（東京大学，大学院教育学研究科(教育学部)）
- 児童・生徒の精神保健に関する保護者の知識・理解向上に向けた教育プログラムの開発
研究代表者：日下 桜子（東京大学，教育学研究科）
- 思春期の心の健康を支えるつながりの構築に向けて：体型と体型認知への支援の可能性
研究代表者：西田 明日香（東京大学，教育学研究科）
- 精神的不調を抱える思春期・青年期のリカバリー促進に注目した早期支援法の開発

<p>研究代表者：白井 香（東京大学, 大学院医学系研究科）</p> <ul style="list-style-type: none"> 性的指向・性自認の性発達過程の解明と社会実装 <p>研究代表者：小林 麻衣子（早稲田大学, 理工学術院）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代別うつ症状と関連する環境要因及び遺伝要因と環境要因の交互作用に関する疫学研究 <p>研究代表者：三宅 吉博（愛媛大学, 医学系研究科）</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期の抑うつ・双極性障害傾向と ADHD との併存の問題に関する発達心理学的研究 <p>研究代表者：田中 麻未（千葉大学, 社会精神保健教育研究センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒を対象にした睡眠生活リズムと心身の発達や学校適応の関連について <p>研究代表者：田中 恒彦（新潟大学, 人文社会科学系）</p> <ul style="list-style-type: none"> 脳・生活・人生からの統合的理解にもとづく思春期からの主的価値発展学 <p>研究代表者：笠井 清登 東京大学, 医学部附属病院</p>
--

表 3. 思春期保健に関連する活動をしている学術団体一覧

日本小児科学会	日本産婦人科学会	日本学校保健学会
日本小児科医会	日本産婦人科医会	日本学校救急看護学会
日本小児保健協会	日本養護教諭教育学会	日本学校メンタルヘルス学会
日本小児心身医学会	日本助産学会	日本生徒指導学会
日本心身医学会	日本学校保健学会	全国養護教諭サークル協議会
日本思春期学会	日本学校健康相談学会	日本健康教育学会
日本小児精神神経学会	日本教育保健学会	日本教育心理学会
日本家族教会	日本養護教諭教育学会	日本学校心理学会